

私のすすめるこの1冊

山本 純子 (国文学科 非常勤講師)

『どうして「体育嫌い」なんだろう』

井谷恵子・井谷聡子・関めぐみ・三上純 (著)

さか上がりできない、とび箱とべない、走るのおそい、と三拍子そろっていたのが、こどもの頃の私でした。そんな私が「どうして体育嫌いなんだろう」と自問すると、「それは私の運動能力が低いからです」という答えがすぐに浮かびます。ところが、この本の帯には「「体育嫌い」はあなたのせいじゃない!」と書いてあります。えっ、私のせいじゃないの、と何だか期待が持てるフレーズです。

この本は、体育嫌いだった大学生に、グループで体育嫌いについて語り合ってもらい、フォーカス・グループ・インタビューという研究法の成果から生まれています。著者の一人、井谷恵子先生は、京都教育大学で長く教授をされていたので、みなさんの先輩方の中にインタビューに参加された方もおられることと思います。

井谷先生によると、生涯にわたって、からだを動かす喜びを保ち続ける、そんな姿勢を育てることが、体育の本来の目的だということです。ですから、ヨガなどのゆったりした動きや、散歩や山歩きといった自然と向き合う活動も、広く体育の分野に入ってくるということです。けれども体育の授業では、長く陸上競技や球技が中心になっていて、速さや高さを競う、勝敗を争うという競技的スポーツが多く時間を占めていることは、誰しも体験したことです。

そんな中で、自分のパフォーマンスの低さが、まわりから丸見えになってしまう、という体育の授業の持つ特性についても語られています。

また水泳をとっても、正しいフォームで速く泳ぐことが大切にされ、長く水に浮いていられる能力を身につける、といった災害時を見据えたような指導は、一般にはされていないことが、

この本で指摘されています。

体育のカリキュラムの中の偏りに、体育嫌いを生み出す要因があるのではないか、という問いかけに、そうか、私個人の問題というわけではなかったのか、と学校期を終えて数十年、狭かった肩身がやや広がった思いがします。

もちろん、忍耐強い練習の繰り返しで自己記録が伸びる、切磋琢磨した仲間と力を合わせて相手チームに勝利する、といった達成感を味わうことは、何ものにも代えがたい体育分野の魅力だ、ということにも、この本は言及しています。それとともに、そんな華やかさの陰で、存在感を薄くしている体育嫌いたちのつぶやきに、これからの体育を考えるヒントがある、という提言がされています。

生理の時の体育実技がきつかったと言う女性、できて当然の雰囲気がつらかったと言う男性、運動着でからだのラインが出るのがいやだったと言う性的マイノリティー(LGBTQ+)の人、これまで沈黙してきた、たくさんの人たちの声が、この本の中の研究に反映されています。

この本のあとがきに、「とびばこよりも」という私の詩を載せていただいています。私は長く詩を書いています、ある時こども向けの詩を書こうと思い立ち、こどもの頃の心情を思い起こそうとしました。すると意外なことに、鉄棒やとび箱の場面が次々とよみがえりました。できるよう手伝ってくれた友だちの存在も含めて思い出したのですが、体育嫌いは大人になっても尾を曳くものだ、とその時実感しました。

体育嫌いだったあなた、体育嫌いのこどもに教員として出会う可能性のあるあなた、この本を手にとって、「体育嫌い」について、一度考えてみませんか。

後期ブックハンティング参加者募集！

今年度後期も河原町 BAL の丸善京都本店で、ブックハンティング(店頭選書)を行います。

学生の皆さんが直接「図書館におく本」を選べる企画です。実際に本を手にとって選べる貴重な機会ですので、ぜひご参加ください！

(選書基準は通常リクエストと同じく、学習・研究を目的とした図書に限ります)

【開催日時】10月24日(金) 14:30~16:30(予定)

10月29日(水) 14:30~16:30(予定)

【応募締切】10月19日(日)



附属図書館
お知らせのページ



申し込みフォーム



リクエストと投票で話題の本を読もう

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画です！リクエストや投票にぜひ参加してください！

投票期間：10月1日(水)~10月30日(木)

「京教大の先生が選んだ ”私のすすめるこの1冊”」を展示！

図書館ニュース 300 号発行を記念して、「京教大の先生が選んだ”私のすすめるこの1冊”」を展示しています！今まで先生方が紹介してくださった1冊の中から、現在も本学に在籍されている先生方が紹介された16冊をピックアップして展示中です。紹介された本とともに紹介文も展示しています。

紹介文を読んで本を選ぶもよし、本を読んで紹介文を読むもよし、ぜひ本を読むきっかけにしてください！



夏季休暇に伴う長期貸出について

返却期限は10月8日(水)です。

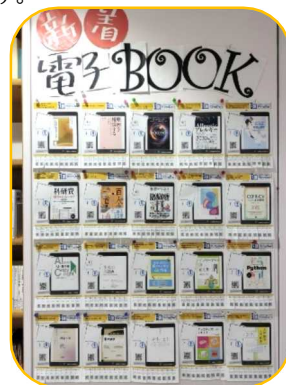
「新着電子 BOOK」のポスターを掲示しています

新たに購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」横で展示しています。

各ポスター下側にある二次元コードは切り離し可能ですので、読みたい本/興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。

なお、スマホや学外から電子書籍を利用する際は「学認でサインイン」を

選択し、学内アカウントの ID・パスワードを入力してご利用ください。



電子ブック (MeL) 試読開始

10月1日(水)より丸善雄松堂提供プラットフォーム、Maruzen eBook Library における電子書籍の全文試読み放題が始まります。

対象資料はなんと 110,000 冊以上！

たくさんのご利用をお待ちしています！

実施期間：10月1日(水)~11月30日(日)



「2025 前期ブックハンティング」選出 本を展示しています

5月21日(水)、京都丸善本店にて前期ブックハンティング(選書ツアー)が開催されました。参加は4名と小人数でしたが、バラエティー豊かな本が選ばれています。

10月6日(月)まで1階渡り廊下新着図書の隣で展示しています。どなたでも自由に借りられますので、是非ご利用ください！



京都教育大学 それはかなう夢講座

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第48回のお知らせ

10月中旬YouTube公開予定

【講師】松本歩子(家政科 講師)

【テーマ】小学生の放課後をのぞいてみよう！

学童保育での生活と遊び

＜概要＞学童保育(放課後児童クラブ)は、子どもが自分のやりたいことを見つけ、異年齢の仲間とともに遊びや生活を創り上げる「主体的な時間」が広がる場です。その日常を支えるのは、子どもの思いや意見に寄り添い、安心できる環境を整える職員の専門性。そして、この営みを下支えしているのが、児童福祉法や運営指針といった制度的な枠組みです。

本講座では、放課後に見られる子どもたちの姿と、それを支える・制度を、具体的な事例を交えてご紹介します。放課後がもつ魅力と可能性を、一緒にのぞいてみませんか。

主催:「現代のニーズを踏まえた「理系」教員養成のための
カリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館



学修相談カウンター 10月から再開します！

レポートや卒論、教育実習、就活などさまざまな相談を受け付けています。

【場所】北館2階ラーニング・コモンズ

Web フォームもあります。

時間が合わない、いきなり対面相談は緊張する、、、などの場合はフォームでの相談も受け付けています。



Web 相談フォーム

図書館講習会のお知らせ

図書館ではさまざまな講習会を予約制で開催します。

レポート・論文を執筆する前に、図書館職員から施設・サービス・資料の利用方法を聞いてみませんか？皆様のご参加お待ちしております！

【実施期間】10月14日(火)～11月14日(金)

【申込方法】氏名・専攻・人数・希望講座・希望日時(曜日・時限(平日11:30～17:15まで))を明記の上、以下のメールまたはGoogle フォームから前日までに申し込みください。調整の上、いただいたメールアドレスに開催日時を連絡いたします。

・メール:library@kyokyo-u.ac.jp

・Google フォーム:二次元コードから申込可能

【集合場所】附属図書館カウンター

※詳細は図書館 HP 等をご確認ください。



製本作業による雑誌の利用制限について

南館 1 階にある雑誌のうち2024年の発行分を中心に、一部が製本作業のため、10月下旬頃まで、利用できなくなります。製本後はすべて西館3階電動集密書庫に配架しますので、そちらをご利用ください。

※詳細についてはカウンターにお尋ねください。

児童書コーナー (南館 1 階)



今月の絵本カード(学生作)

『くれよんのくろくん』
作・絵:なかや みわ
出版社:童心社



※児童書コーナーに
かわいいカードが
飾られています。
ぜひ見に来てくだ
さい。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【10月の開館日時】

6日(月)、13日(月・祝)、20日(月)、27日(月) 14:00～17:00

好評開催中！ ※本学は連携参加大学です
第13回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリー
8月30日(土)～2026年3月16日(月)

教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>



論のくちび理のむすび

今回の執筆者 齊藤 恵太 (社会科学科 准教授)

スウェーデン戦争の展開 ー1630-35年の神聖ローマ帝国と「バルト海帝国」ー

齊藤 恵太

京都教育大学紀要 2025, No.146, pp. 35-52
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9936>



第一次世界大戦に至るまで、ドイツで「大戦争」が意味したのは三十年戦争(1618～1648年)でした。もともとオーストリアを中心とするハプスブルク家領内の反乱に始まった争いが、まもなく神聖ローマ帝国の内戦へと発展し、やがて最初のヨーロッパ大戦ともいべき規模にまで拡大したのがこの戦争です。20世紀の二つの世界大戦によって相対化されつつも、三十年戦争は現在に至るまで大惨禍としてドイツの歴史に名を残しています。

この戦争が近世ヨーロッパ大戦としての性格を強めたのがスウェーデン戦争と呼ばれる局面でした。1630年にスウェーデン王グスタヴ二世が軍を率いて北ドイツに上陸したことによって戦況は大きく変わり、それまで優位に立っていた皇帝が劣勢に立たされることになります。そのスウェーデン王が1634年に帝国とスペインの連合軍に敗れると、まもなくフランスも帝国への介入の度合いを強めていくことになります。

このように書くと、まるで皇帝や各国の王を中心とする「既成」の国々が争う国際戦争のようにきこえるかもしれませんが。しかし実際には、近世における国家は形成途上で、神聖ローマ帝国では皇帝と無数の小国君主がどのように政治権力を配分するのかが試行錯誤されているところでした。またスウェーデン王も、「バルト海帝国」と呼ばれる広域的な支配圏を築き、まとめ上げようと画策している最中でした。本稿は、そうした近世における国家形成の過程が三十年戦争とどのように絡み合い、ヨーロッパ大戦へと発展したのかを検討しています。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要146号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリクエリ(KUERe)の森J<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-20:00 □9:00-17:00 □10:00-17:00
□9:00-21:00 ■休館(CLOSED)

2025年10月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

10/1 後期授業開始
10/18 大学院入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

2025年11月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

11/5 館内整理日
11/7-9 藤陵祭
11/29 学校推薦選抜入試

●京都教育大学附属図書館ホームページ
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>
(二次元コード→)



京教図書館 News No.301 (2025年10月号)
発行日:2025年10月1日
編集発行:京都教育大学附属図書館
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION